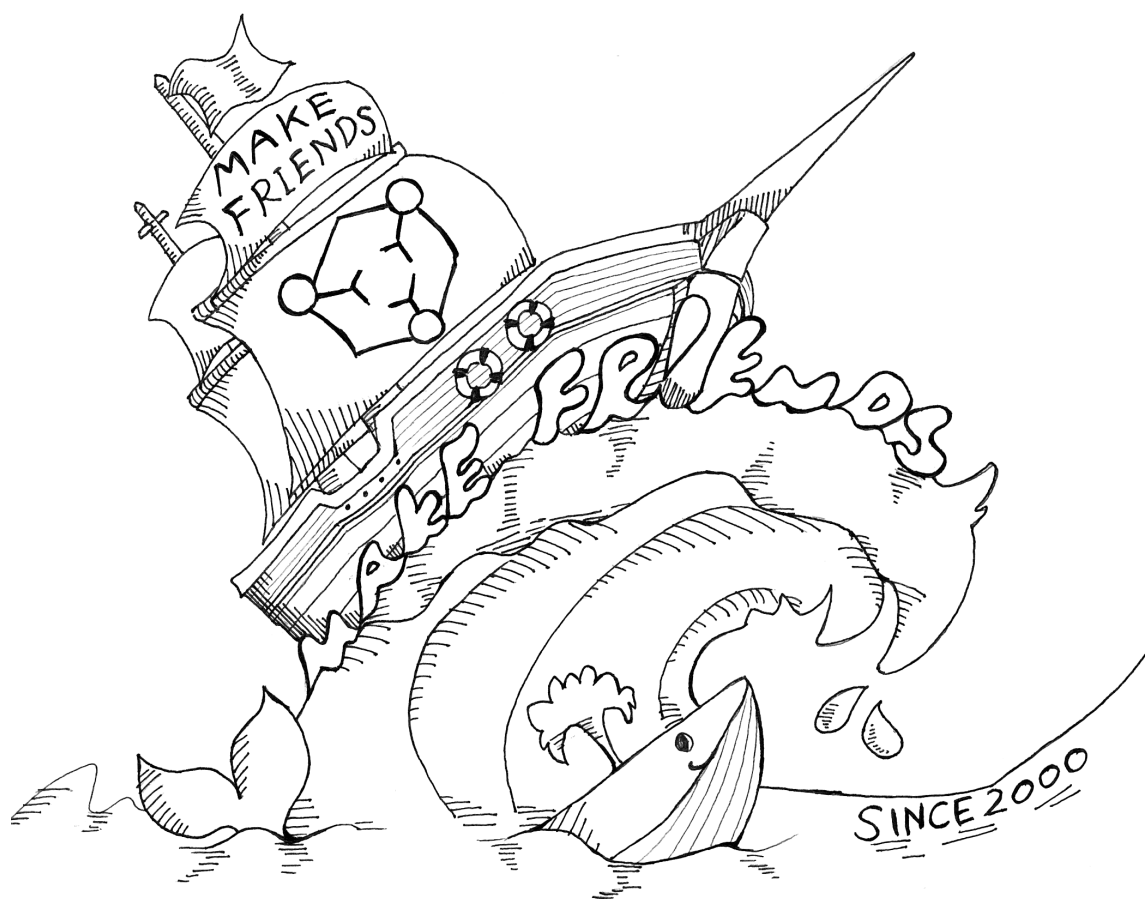


2012（平成24）年度
熊本大学教育学部フレンドシップ事業

実施・成果報告書



熊本大学教育学部
附属教育実践総合センター

2013（平成25）年3月

目 次

はじめに

- 1 平成24年度熊本大学フレンドシップ事業シンポジウム・分科会 ご挨拶
..... 熊本大学教育学部長 登 田 龍 彦 1
- 2 平成24年度熊本大学フレンドシップ事業シンポジウム
..... 教育実践総合センター長 中 川 保 敬 2

I メイクフレンズ活動の実施報告

- 1 メイクフレンズについて 3
- 2 2012（平成24）年度メイクフレンズ活動体系について
..... 熊本大学教育学部2年 安 達 友 美 5
資料 2012年度熊本大学メイクフレンズ学生名簿 7
- 3 2012年度メイクフレンズ年間活動一覧 9
- 4 2012年度メイクフレンズ外部依頼による活動一覧 11
- 5 2012年度活動報告 12
 - (1) メイクフレンズ「中央プランナー班」活動報告書
 - (2) メイクフレンズ「五福ホール班」活動報告書
 - (3) メイクフレンズ「龍田プランナー班」活動報告書
 - (4) メイクフレンズ「託麻・お買いもの班」活動報告書
 - (5) メイクフレンズ「大江班」活動報告書
- 6 2012年度熊本大学教育学部フレンドシップ事業シンポジウム・分科会開催要項 22

II 分科会の実施報告

- 1 メイクフレンズ学生自主企画分科会 27
- 2 実施計画 28
- 3 合同分科会の事後アンケート結果 42

III 教育実践総合センター教員からのメッセージ

- 1 今年のメモリアル・ワード（12年度）… 教育実践総合センター教授 吉 田 道 雄 49
- 2 平成24年度フレンドシップ事業の感想—学生たちの立ち居振る舞いは美しかった—
..... 教育実践総合センター教授 高 原 朗 子 50
- 3 『子どもの成長』を見て取ること … 教育実践総合センター准教授 中 山 玄 三 51
- 4 フレンドシップ事業に思う …… 教育実践総合センター特任教授 田 中 耕 治 52

ご 挨拶

熊本大学教育学部長 登 田 龍 彦



皆様、おはようございます。教育学部長の登田でございます。平成24年度熊本大学フレンドシップ事業シンポジウム・分科会の開催に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、熊本県・熊本市の社会教育機関の先生方におかれましては、お忙しい中ご出席いただきまして、誠に有り難うございます。本事業は、教師を目指す学生が、子どもたちとのふれあいを通して、子どもたちの気持ちや行動を理解し、豊かなコミュニケーション力と実践的指導力を身につけることを目的とする教育的活動です。中央教育審議会から平成24年8月28日に答申された「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」の中で謳われております教員に求められる資質能力の一つに、「総合的な人間力（豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力、地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力）」があります。これまで本学部が重視してきた体験型活動であるフレンドシップ事業は、この教員に求められる資質能力を養成するための教育体験そのものであり、「総合的な人間力」の修得において大きな役割を担っています。

本事業を支えるものとして、1年生を含めた約70名のサークル「Make Friends」が存在し、5班に分かれて熊本市内の中央、五福、龍田、託麻、大江の5公民館の社会教育施設や熊本県生涯学習推進センター、熊本市役所生涯学習推進課と連携・協力しながら、子どもが参加する行事等の企画・運営が積極的に行われ、その活動報告が楽しみです。また、午後の分科会は、「共感」と「発見」をテーマにして、討議がなされるそうですが、活発なものになることを期待しております。今後益々、地域の教育機関と連携を強化させて頂きながら、本事業を深化させて行く必要があると思われまふ。特に今年度は、平成24年10月6日に鹿児島市で開催されました日本教育大学協会主催の研究集会にて、フレンドシップ事業の成果を学生諸君が発表したことは、有意義で、記念すべき成果であったと思われまふ。

本日は、公民館から諏訪園先生、江川先生、松尾先生、魚住先生、作本先生、連携協力機関から熊本県生涯学習推進センター審議員の上杉先生と主幹の上村先生、熊本市役所生涯学習推進課主事の坂口先生に、今年度の活動に対するコメントを頂戴することになっております。また、本日は、熊本県教育庁社会教育課長の石川仙太郎先生に特別講演をして頂くことになっております。心より感謝申し上げます。宜しく御願ひ致します。

最後に、本日もご出席頂きました先生方には、フレンドシップ事業の発展のために、これまでご尽力いただきましたことに対し、厚くお礼を申し上げ、併せて今後とも変らぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。本日のシンポジウム・分科会が有意義なものになりますことを祈念致しまして、挨拶とさせていただきます。

平成24年度熊本大学フレンドシップ事業シンポジウム

教育実践総合センター長 中 川 保 敬



熊本県教育庁社会教育課の石川仙太郎課長や社会教育課の先生方、熊本県生涯学習推進センター上杉奈緒子審議員、上村修治主幹、熊本市生涯学習推進課坂口亮主事をはじめ、直接活動を指導いただいた熊本市中央公民館・五福公民館、龍田公民館、託麻公民館、大江公民館の社会教育主事の各先生方をお迎えして、フレンドシップ事業シンポジウムを開催できますことは、誠に嬉しく心より感謝申し上げます。また、13年間に渡り継続して活動していますメイクフレンズの皆さんに感謝申し上げます。

シンポジウムに於いて、本年は「子ども理解」を活動目標に置き、熊本市の五つの公民館に於いての活動の報告がなされました。その報告の中で、「子どもの発想力の豊かさを知った」、「子ども自身の表現力を育てるための繋ぎ役が重要である」、「子どもの考えと学生の考えのギャップを感じた」など具体的な様々な学びの場面が報告された。子ども達との活動の中で悩み、考え、対策を立て、実践したことは、子ども達の成長も引き出すと共に参加学生の成長にも繋がったことでしょう。

熊本市中央公民館・五福公民館、龍田公民館、託麻公民館、大江公民館の社会教育主事の各先生方及び熊本県及び市の生涯学習推進センターの先生方より、本年の活動について「子どもと学生の信頼を築く大切さ」や「安心感は、見通しを持たせることが不可欠である」、「子ども達があこがれる目標の人」になってほしいとのアドバイスを戴き、メイクフレンズの学生の皆さんと社教主事の先生方との熱い信頼が築かれているのが見られたシンポジウムでした。

特別講演として熊本県教育庁社会教育石川課長より「これからの学校教育・社会教育とメイクフレンズ活動への期待」として、熊本の子どもの状況や家庭・地域の環境と子どもの成長への影響についての説明。また、子どもに直接関わるだけでなく、学校の力で地域の教育力、家庭の教育力を引き出し、高めることが必要であると今後の活動に期待と示唆を受けました。

最後に、メイクフレンズの皆さんの一年間の活動に感謝申し上げ、14年目に向かって、本シンポジウムで得られました貴重な体験や示唆を生かし、子どもの豊かな成長のために支援下さいますようお願いいたします。

I. メイクフレンズ活動の実施報告

メイクフレンズについて

全国国立大学教育学部において文部科学省が推進しているフレンドシップ事業は、さまざまな体験活動を子どもたちと学生がともに行い、ふれあう中で学生が子どもたちの気持ちや行動を理解し、実践的な指導力の基礎を身につけることをねらいとしています。

メイクフレンズは、このフレンドシップ事業の一環として行われた、熊本大学教育学部の授業から発展した学生主体の活動です。メイクフレンズでは、学生である私たちが活動を企画し、そしてその活動を実践したり、そこでの体験を振り返り見直したりすることによって、「子どもを見る目」及び「子どもの考えや行動を予測した企画」のレベルを向上させることを目的としています。現在、活動の場として、中央公民館、五福公民館、龍田公民館、託麻公民館、大江公民館などの社会教育施設にご協力いただき、企画・運営を含めた大学外での体験活動を行っています。

熊本大学メイクフレンズ

★平成24年度は…

- 中央公民館
- 龍田公民館
- 五福公民館
- 託麻公民館
- 大江公民館

5つの公民館と提携させて頂きました。

プランナー班とは？
「プランナー」とは、年3回の活動を企画・運営する子どもたちのこと。月2回ほど学生と一緒に会議をし、一般の子どもたち(参加者)と活動を楽しみます。熊大だけ!!

単発班とは？
学生が約2ヵ月かけて様々な企画をつくり、子どもを募集して実行する。子どもに求めたいものを学生が意識しながら企画できるのが特徴である。

ホール班とは？
月1回約90分の活動を学生が企画する。テーマの告知だけを行い決まった人数は募集しない。そのため1~6年生という幅広い年齢の子どもが活動に参加する。

企画 (班単位で企画の内容を話し合う。)

実践 (企画の成果を発揮し、子どもたちの関わりを大切に。)

振り返り (活動の報告書を作成し、班内や全体で良い点悪い点を話し合い、次の企画に生かす。)



2012（平成24）年度メイクフレンズ活動体系について

熊本大学教育学部2年 安達友美

今年度は熊本市の5つの公民館と提携させていただき、5班構成で活動を行ってきた。前年度の流れを引き継ぎ、年間を通して特定の子どもたちと共に活動の企画運営をするプランナー班、学生が主体となって活動を企画、運営する単発班・ホール班として活動を行った。メイクフレンズでは、「子ども理解」を目的とし、自分たちが企画した活動中の子ども様子、学生の言動に対する子どもたちの反応をエピソードとして振り返り、共有している。このエピソードは同じ子どもの反応でも、学生によって感じ方が変わるため、それを共有することで「子ども理解」の幅を広げ、深めることができると考える。

今年度の方針では、この「子ども理解」を深めていくため、企画・実践・振り返りをより充実させたいと思い、それぞれの場での学生の心構えとして、「きょうかん（共感・協感・鏡感）」を挙げた。「企画（共感）」では、他の人の意見から何かを発見しようとする姿勢を持つことで、自分の視野を広げるということにつながり、また相手の言いたいことを受け入れて理解しようとする姿勢を持つことで、話しやすい環境が生まれ、企画が充実していくことを目指した。「実践（協感）」では、互いに協力していくことを大切に、子どもと直接関わる場で、子どもにとっても学生にとってもよりよい活動にしていくことを目指した。「振り返り（鏡感）」では、個人として、また集団としても、企画・実践での場面ひとつひとつを見つめなおすことで、見つかった課題を改善し、良い面をより高めていき次につなげることを志した。この方針のもと、各場面で個人が意識して行動し、よりよいものにしていく姿勢、高め合おうとする姿勢が見られた。これからも、この方針に沿って、学生同士の信頼関係と「子ども理解」を深めていきたい。

メイクフレンズは来年度で14年目を迎える。今までメイクフレンズが築き上げてきたものを大切にしながらも、メイクフレンズのさらなる発展・充実のため、新たな取り組みを行っていきたい。また「子ども理解」という共通の目標と、それぞれの想いを持った仲間が集うこの場で、メイクフレンズがさらによいものとなっていくよう、企画・実践・振り返りのサイクルをより充実させ、子どもへと還元していきたい。

最後になりましたが今年度も、公民館の先生方をはじめ、市や県の先生方、そして吉田先生、田中先生をはじめとする教育学部の先生方には、メイクフレンズの活動に多大なご支援とご理解をいただきました。多くの方々からの支えがあるからこそ、私たち学生は、メイクフレンズという場で貴重な経験ができています。心から感謝申し上げます。これからもご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

『きょうかん』 **共感** **協感** **鏡感**
(企画) (実践) (振り返り)

○方針とは？

方針を決めるうえで、私たち二年生は、現状を見つめ直し、メイクフレンズのよい面をさらに向上させ、課題を改善していきたいと考えました。また、メイクフレンズのねらいでもある子ども理解を深めるため、企画・実践・振り返りをより充実させたいと考えました。そのため、子ども理解をする場を整えるための学生の心構えを方針ととらえ、企画・実践・振り返り、それぞれの場での学生の心構えとして、共感・協感・鏡感を挙げました。

○共感(企画)とは？

発見しようとする姿勢、理解しようとする姿勢を持つ

話し合いは自分を含めた、貴重な意見をもつ人が集まる場です。その話し合いを通して、他の人の意見から何かを発見しようとする姿勢を大切にしてほしいと思っています。この姿勢を持つことで、その発見は、自分の視野を広げるということにもつながります。自分とは違った意見、考えの発見はさらに子ども理解を深めるものになるのではないかと思います。

また、話し合いをし、企画をしていく中で、様々な壁が生じることがあります。自分の考えをうまく伝えることができなかつたり、また逆に相手が何を考えているのか、伝えようとしているのかわからなかつたりすることもあります。そのようなときに、相手の言いたいこと、わかってほしいことを否定することなく、そのまま理解しようとする姿勢を大切にしてほしいと思います。この姿勢を持つことで、話しやすい環境が生まれ、企画が充実していくのではないかと考えます。

○協感(実践)とは？

子どもにとっても学生にとっても、よりよい活動にするために協力しよう

私たちはたくさんの時間をかけて、子どものことを考え活動を企画していきます。その成果を発揮する場である実践では、子どもにとってよりよい活動にするために学生同士が協力していくことを大切にしてほしいと思います。また、実践は唯一、子どもと関わることのできる場です。ここでは、子どもと直接関わることによって、多くのことを学ぶことができるでしょう。学生にとってもよりよい活動にしていくため、互いに協力してほしいと思います。

○鏡感(振り返り)とは？

企画と実践での場面を鏡に映しだして振り返り、次につなげよう

振り返りでは、個人として、また集団としても、企画・実践での場面を鏡に映しだす、見つめなおすことを行ってほしいと思います。鏡に映しだすことで、はじめて良い面・課題に気づくことができます。そして、見つかった課題は改善、良い面はより高めていき次につなげることで、これからの企画・実践・振り返りはさらに良いものになると思います。

○最後に

この方針には共通して「感」という字があります。私たち二年生は、これを「感じようとする」という意味で考えました。いまメイクフレンズにはひとりひとりそれぞれの思いで集っている多くの仲間がいます。そのため、子ども理解の中で何を感じようとするかは人それぞれであり、皆さん次第です。この方針の先に、皆さんの求めている何かをそれぞれに感じる事ができればと思います。

2012年度 メイクフレンズ年間活動一覧

月	日	五福ホール	大江	託麻・お買いもの	龍田プランナー	中央プランナー
6	9 (土)	みんなでつくろう！ピック りすごろく！				
	10 (日)				開講式	開講式
	17 (日)		～作って売ろう！！買って 食べよう！～集まれ！わく わく屋台村☆			
	23 (土)				プランナー合宿1日目	プランナー合宿1日目
	24 (日)				プランナー合宿2日目	プランナー合宿2日目
7	1 (日)			おかいもの ジュージュ 焼いてマスターしよう ぜえ～！ワイルドだろお～！ お好み焼き大作戦！！		
	7 (土)				プランナー会議	プランナー会議
	14 (土)	キラキラ書道アート				
	21 (土)				プランナー会議	プランナー会議
8	4 (土)				プランナー会議	
	6 (月)					
	11 (土)	五福オリンピック				プランナー会議
	18 (土)				プランナー会議	
	21 (火)					COP19～夏のバカンス大 作戦～ in あしきた1日目
	22 (水)					COP19～夏のバカンス大 作戦～ in あしきた2日目
	23 (木)				行こうよ豊野!わくわくド キドキ夏キャンプ1日目	
	24 (金)				行こうよ豊野!わくわくド キドキ夏キャンプ2日目	
	25 (土)		熊本の果てまでイッテQ ～市電の旅～			
9	8 (土)	ドキワクサイエンス！			プランナー会議	
	9 (日)					プランナー会議

月	日	五福ホール	大江	託麻・お買いもの	龍田プランナー	中央プランナー
9	15 (土)			パクパク森森！大自然の中で手作り Pizza～デイキャンプ in とよの～		
	22 (土)				プランナー会議	プランナー会議
	29 (土)					プランナー会議
10	6 (土)				プランナー会議	
	13 (土)	作って飛ばそう！ジャイロ飛行機				
	14 (日)					プランナー会議
	20 (土)				プランナー会議	
	21 (日)					COP19～ワクドキ秋のハロウィンフェスティバル
	27 (土)				はじまるよ！ハロウィンパーティー	
11	3 (土)					プランナー会議
	11 (日)	風流街ロマンフェスタ				
	17 (土)				プランナー会議	プランナー会議
	25 (日)			はじめてのおかいもの～カレー編～		
12	8 (土)	戦えVSサンタ			プランナー会議	
	15 (土)					プランナー会議
	22 (土)	興南会館			プランナー会議	
	23 (日)					プランナー会議
1	12 (土)	バルーンフェスタ			プランナー会議	
	19 (土)		作ろう！我が家のカレンダー			COP19クリスマスパーティー in 中央～冬の寒さを吹き飛ばせ～
	26 (土)					閉講式
	27 (日)				食べて遊んで楽しもう！ぽかぽか龍田フェスティバル	
2	9 (土)	夢街開発プロジェクト				
	10 (日)				閉講式	
	16 (土)		ウチどけい～いま何時？～			
	24 (日)			ピタゴラススイッチ…ON!!		

2012年度 メイクフレンズ外部依頼による活動活動一覧

月	日	依頼主	活動内容	活動場所
4	21	託麻公民館 魚住先生	託麻北2町内お見知り会	託麻北コミュニティセンター
4	22	田迎南3町内子ども会	お見知り会	田迎南小学校体育館
5	6	黒髪18町内子ども会	新入生歓迎会	竜南中学校体育館
5	12	砂取1町内子ども会	お見知り会	砂取小学校体育館
5	12	田迎南4町内子ども会	お見知り会	田迎南小学校体育館
5	12	出水南8町内子ども会	新入生歓迎レクリエーション	亀継公園（老人憩いの家）
5	13	楠3-5町内子ども会	お見知りパーティー	楠小学校体育館
5	19	弓削4町内子ども会	新入生歓迎会	弓削小学校体育館
5	26	桜木東4-5町内子ども会	お見知り会	桜木東小学校体育館
6	24	田迎1町内子ども会	6月のレクリエーション会	田迎地域コミュニティーセンター
10	20~21	生涯学習課	熊本城子どもわくわく体験学習	熊本城
11	17	向山小学校PTA4年生	4学年行事	向山小学校体育館
12	15	砂取7町内子ども会	クリスマス会	山の下公園 憩の家
12	16	秋津1町内公民館	クリスマス会	秋津1町内子ども会
2	24	田迎5町内子ども会	お別れ会	田迎公民館

2012年度 中央プランナー班前期 活動報告書

〈前期を振り返って〉

班長 2年 橋本 まどか

前期中央プランナー班では、小学4～6年生の子どもたち19名をプランナーとして迎え、6月に「開講式」「プランナー合宿」、8月に「COP19～夏のバカンス大作戦～inあしきた」を行った。私たちは「自主性」「主体性」そして「一体感」を軸に活動を行っていった。

「開講式」で初めて子どもたちと対面した。中には同じ小学校から友だち同士で来ている子どもも多く、全体的に元気いっぱいという印象を受けた。1年を通してこの19名の子どもたちがひとつのチームとして団結し活動を作り上げていくことをとても楽しみに感じた。

「プランナー合宿」では、菊池少年自然の家に行き、レクリエーションやプランナー会議を行った。子どもたちに、まず『プランナーとしての活動が楽しいものだ』と感じてほしかったため、初めての会議は、チーム名決めや自分たちが行うレクリエーションの企画など、考えやすくワクワクするような内容にした。実際にレクリエーションを行った際には、自分たちの企画した活動を形にしようとする一生懸命な姿を見ることが出来た。学生たちは子どもたちの現状を把握することができ、またプランナー間の学年学校を超えた新しい人間関係もつくることのできた有意義な合宿だったと思う。

「COP19～夏のバカンス大作戦～inあしきた」ではプランナーと同学年の参加者を迎えあしきた青少年自然の家に行き、プランナー企画でボート体験やナイトハイク、ビーチ遊びを行った。活動中には、前に出て堂々と挨拶したり、活動の説明を行ったりと自分たちの役割をしっかりとこなす姿を見ることが出来た。参加者を迎える初めての活動であり、子どもたちにプランナーとしてどのような姿を求めたいのか学生側としても悩むことが多かったが、子どもたちに楽しい思い出をつくってほしいという思いを一貫して持って活動を行うことができた。

この半期では学生間での共有が足りず、多くの課題を後期に持ち越す形になったが、子どもたちの【プランナーをした一年】をかけたがえのない経験にしたいという気持ちで活動に取り組むことができ、わたしにとっても素晴らしい経験となった。



2012年度 中央プランナー班後期 活動報告書

〈後期を振り返って〉

班長 2年 松本 修 歩

後期中央プランナー班では、10月に「COP19～ワクドキ秋のハロウィンフェスティバル」、12月に「COP19クリスマスパーティーin中央～冬の寒さを吹き飛ばせ～」、1月には「閉講式」を行った。

10月の活動では小学校2・3年生の参加者を迎え、おばけやしきとクッキーづくりを行った。おばけやしきではプランナー同士で協力して参加者をおどろかそうとする姿や、クッキーをつくる際は参加者を手伝ってあげる姿を随所に見ることができた。しかし、自分の考えた企画以外はあまりかかわろうとしない姿が課題として残った。

12月の活動では小学校1～3年生の参加者を迎え、白川公園で戦闘中やドッチビー、逃走中を、中央公民館でケーキ作りとレクパーティーを行った。前回の反省を踏まえ、プレを行うことで活動全体において自分の役割を意識するように工夫をした。その結果、活動中のプランナーは自分が考えた企画以外にも積極的にかかわって参加者を楽しませようとしており、活動に対して愛着を持っているように感じる事ができた。また前回の活動以上に参加者に対して思いやりを持って接していた姿がとても印象に残った活動であった。

「閉講式」では熊本フードパルへ行きソーセージづくり体験や学生企画によるレクを行い、中央公民館に帰ってからはプランナーとしての1年間の振り返りを行った。プランナー同士のかかわりを見て、開講式で初めて会った子どもたちも一年間を通して学校や男女の垣根を越えて仲良くなっている姿がとても感動的であった。また振り返りでは、多くのプランナーからこの一年間の活動が楽しかったという言葉が聞くことができ、学生はプランナーにとって思い出に残るような支援ができてよかったと感じた。

プランナーと1年間関わったことにより、プランナーそれぞれの良い姿や成長した姿を発見することができた。学生の支援がうまくいかず悩むこともあったが、子どものことを深く考える良い機会となった。この経験を今後活かしていけるように努力していきたいと思う。



2012年度 五福ホール班前期 活動報告書

〈前期を振り返って〉

班長 2年 加藤 涼 平

前期五福班では、子どもたちのコミュニケーション能力の向上を図ることを目的とする「サタデーワンダーホール」の活動を企画、運営し、「みんなでつくろう！巨大すごろく」「キラキラ書道アート」「五福オリンピック」「ドキワクサイエンス」の四つを実施した。

前期五福班では、「居場所」という言葉を強く意識し、活動に参加した子どもたちが安心感を持てるような雰囲気づくりをすることを目指し、話し合いを重ねてきた。それを実現するため、子どもたち同士でふれ合う機会を増やし、子どもたちに主体的に参加してもらえるような活動を企画した。

「第二回サタデーワンダーホール キラキラ書道アート」では、子どもたちといっしょに巨大な短冊に絵や文字を描き、天井に吊るして飾るという活動を行った。子どもたち同士をこちらから無理やり関わらせるのではなく、一人一人が楽しみながら自然と関わりあえるような雰囲気作りをしたい、という想いから企画したものであった。当初子どもたちは緊張している様子であったが、筆を手渡すとそれぞれが好きなものを描き始め、すぐに短冊が完成した。絵や文字でびっしりと埋め尽くされた短冊が何枚も飾られている景色は圧巻で、子どもたちの創造力やイメージの豊かさに驚かされた。何より、その場にいた子どもたち全員が活動に参加し、楽しんでくれたことが嬉しかった。前期五福班が目指してきた理想の活動に、最も近づくことができた活動であった。

活動をつくりあげるのは子どもたちである。私は何度も子どもたちの楽しそうな姿に励まされてきた。だからこそもっと楽しい活動を、子どもたちが「また来たい！」と思う活動をつくりたいと思う。そして、私自身も、子どもたちといっしょに楽しむことを大切にしていきたいと思う。活動に関わってくださった全ての人たちに感謝し、これからもがんばっていきたい。



2012年度 五福ホール班後期 活動報告書

〈後期を振り返って〉

班長 2年 田中 亜由美

後期五福班は前期で作られた方針を引き継ぎ、10月に「作って飛ばそうジャイロ飛行機」、12月に「VSサンタ」、1月に「バルーンフェスタ」、2月に「夢街開発プロジェクト」の全4回の活動を行った。また五福校区で毎年行われる「風流街浪漫フェスタ」、興南会館で行われた「わくわく生涯学習フェスタ2012」にも参加させていただいた。

私が後期の中で一番印象に残っているのは、2月の「夢街開発プロジェクト」である。子どもたち同士のコミュニケーションを重視し、活動を企画した。子どもたち同士のコミュニケーションを引き出すために、まずは自分の個性を表現し受け入れてもらえる場をつくる、学生は子どもと子どもの会話を繋ぐ役割をする、という工夫を行った。

そこで活動当日開発会議と題して、子どもたちが自分たちの作りたい建物を全体に向けて発表するという場面を設定した。その中である男の子が「ゲーセンの街」という発言をし、そのあと実際に街を作っていく時間で、女の子が「ゲームセンター」という名前の建物を作っていた。直接のコミュニケーションがなされた訳ではないが、男女間の交流という、五福班が目指した子どもたち同士の関係を見ることができた瞬間であった。

また、それまでの活動で学生の話聞かず、その結果次に何をしたら良いのか分かっていない子どもが居るという反省があがった。そのため学生間で子どもたちに活動の見通しを持たせ、取り組みやすくさせるにはどうしたらよいか話し合い、タイムテーブルをスクリーンに写し視覚的に提示するという工夫を行うこともできた。

2月の活動を終えて、方針を達成できたと完全には言うことはできないが、各活動で子どもたち同士のコミュニケーションを見ることができた。班長をやる中で企画の難しさを改めて知ったが、一生懸命に考えた分活動本番の子どもたちの言葉や行動に、きちんと注目することができるようになった。この貴重な経験を自分の自信とし、今後の活動に生かしていきたいと思う。



2012年度 龍田プランナー班前期 活動報告書

〈前期を振り返って〉

班長 2年 松本有加

前期龍田プランナー班では、6月に「開講式」「金峰山プランナー合宿」8月に「行こうよ豊野！わくわくドキドキ夏キャンプ」を行った。私たちは「つながり」「自覚」「自信」の3つを子どもたちの成長の柱とし、活動を行ってきた。

「開講式」で初めて小学4～6年生のプランナー13人と対面した。子どもたちはとても人懐っこく、明るい雰囲気で行うことができた。

「金峰山プランナー合宿」では、プランナー会議について知ってもらうために実際に会議を行い、チーム名を話し合った。初めての会議とは思えないほど沢山の良い言葉が集まり、「協力。絆は∞。たつぞうドラゴンズ」という子どもたちの思いがこもったチーム名を完成させることができた。また、レクリエーションやチーム名の入った旗づくり、室内ハイクで楽しい雰囲気を作ったことで、プランナー同士が関わるきっかけとなり、楽しく会話する姿や元気に遊ぶ姿を見ることができた。

「行こうよ豊野！わくわくドキドキ夏キャンプ」では、同学年の参加者15人と1泊2日で豊野少年自然の家に行った。プランナー企画で体育館遊びやナイトハイク、豊野の自然を生かした"戦闘中"を行い、学生企画でカレー作りとそうめん流しを行った。初めての参加者を前に少し緊張気味であったが、同じ企画班のプランナーと協力する姿や、達成感を共有する姿も見られた。しかし自分自身が楽しみたいという気持ちが先行してあまり参加者と関わるできない面もあった。この活動で、プランナーは企画・実行の流れと参加者という存在を知ることができ、学生はプランナーが自主的に参加者と関わるにはどのようなサポートが必要か考える機会になった。

子どもたちと共有する時間が増えるにつれ、新しい一面やプランナー同士のつながりの広がり、自覚の芽生えをうれしく感じた半期であった。これからも、プランナーひとりひとりが「楽しい」という気持ちを原動力に活動に参加できるようサポートしていきたいと思う。



2012年度 龍田プランナー班後期 活動報告書

〈後期を振り返って〉

班長 2年 井上大輔

後期龍田プランナー班では、10月に「はじまるよ！ハロウィンパーティー」1月に「食べて遊んで楽しもう！ぽかぽか龍田フェスティバル」の活動を行った。

「はじまるよ！ハロウィンパーティー」では、プランナー自身が楽しむことを優先し、参加者とあまり関われなかったという前回の活動の反省から、「参加者のことを意識する」という目的を立て、参加者の対象学年をプランナーより年下の1～3年生に設定した。プランナーの「自分たちがしたいことをする」という気持ちを「誰かの為に企画する」という思いに変えることは容易ではなかったが、前回の活動の参加者アンケートを見ながら話し合いを行ったり、「参加者」という言葉を取り入れたためあてを毎回提示したりすることで、子どもたちから自然と参加者を意識した発言を引き出すことができた。また、目的の支援として行った「参加者に招待状を書いてみよう」という取り組みでは、一生懸命装飾をしたり、自分の言葉で企画をアピールしたりと、日頃よりも真剣なプランナーの姿が見られた。活動当日、参加者に自ら話しかけ、引っ張っている姿はプランナーとしてとても頼もしく見えた。

「ぽかぽか龍田フェスティバル」では、最後の活動ということもあり、「プランナーが自分たちの力で企画・活動をやり遂げる」という目的を立てた。学生は基本的に話し合いに入らず、司会や書記もプランナーに任せながら会議を行った。今までは学生に対して考えを述べるプランナーも多かったが、そのような状況を作ることで自然とプランナー同士の関わりが深まったように思う。本番では、学生の力を借りずに準備や活動を進めていく姿が見られ、参加者が楽しんでくれていることに喜びや達成感を感じているようだった。

1年間を通して、初めは自分のことで精一杯だったプランナーも、他者の意見を尊重できるようになったり、参加者のことを考えながら企画したりと、大きな成長を遂げていった。一人一人と真剣に向き合ってきたこの1年間は、私にとっても貴重な経験となった。



2012年度 託麻班前期 活動報告書

〈前期を振り返って〉

班長 2年 衛 藤 み か

前期託麻班では、7月に『はじめてのおかいもの ジュージュー焼いてマスターしようぜえ〜！ワイルドだろぉ〜！お好み焼き大作戦！！』、9月に『パクパク森森！大自然の中で手作りPizza〜デイキャンプinとよの〜』の2つの活動を行った。

7月の活動では、一人で一つの料理を完成させる経験をし、活動で感じた様々な感情を周りの人と共有してほしいという思いのもと、企画を進めた。また、家に帰って誰かのために作ってほしいという願いもあった。そのため活動では、小学校2年生が家で作れ、調理の全行程が経験できる「お好み焼き」を作った。おかいものでは一人一人好きな食材を買うことでオリジナル性を出し、子ども達全員がお好み焼きを作る全行程を経験できるようにした。活動中の子ども達は、予算内でどんな食材を買うか一生懸命悩んだり、お好み焼きをうまく返せたときに喜んだり、楽しそうな様子だった。また、班内でみんなが焼いたお好み焼きを交換して、感想を言い合う場面も見られた。今回の活動を通して、誰かに食べてもらおう嬉しさや、料理の大変さも知ってもらえたのではないかなと思う。

9月の活動では、小学校3〜6年生を対象に、豊野少年自然の家で、デイキャンプを行った。今回は、自然の中で五感を意識してもらうことで自然を満喫してほしいという思いのもと、企画を進めた。そのため、五感を使うレクリエーションを取り入れたウォークラリーや、野外調理でピザ作りを行った。活動中は、ウォークラリーのコースが厳しかったにも関わらず、笑顔で帰ってくる子ども達の姿や、夕方から降り出した雨にも負けず、ピザを作り、おいしそうに食べる子ども達の姿を見ることができた。自然の中で子ども達にとって普段できない体験ができた活動だったと思う。

前期の活動を振り返ると、企画段階で躓くことが多く、たくさん悩んだ。しかし、活動本番では、たくさん子ども達の笑顔を見ることができた。今後、私達は子どもを笑顔にできる活動を行っているという誇りを持って活動していきたい。



2012年度 託麻班後期 活動報告書

〈後期を振り返って〉

班長 3年 森田 大介

後期託麻班では、11月に「はじめてのおかいもの～カレー編～」を、2月に「ピタゴラスイッチ... ON!!」の二つの活動を企画した。

11月の活動では、小学2年生を対象として、カレーという子どもにとってもなじみ深いメニューを選んだ。今回は、普段何気なく見ているお買い物や料理をまずは"体験する"ことを手段とし、お買い物・料理そのものを"楽しむ""知る"ことをねらいとした。お買い物では絵カードで材料を事前に決めて行き、買う途中での新発見の場や考えて買うことを大切にして、お買い物の自由度を高めた。料理では切り方や炒め方を子どもの自由にさせるなど純粋に料理そのものを楽しんでもらった。活動中は、子どもたちが真剣に悩んで肉や野菜を決め、少しでもおいしくなるよう工夫しており、おいしそうに自分たちのカレーを頬張っていた。今後の課題としては、参加者間にも個人差があり、それを学生がどのように捉え企画自体や子ども対応に活かしていくかだと思う。

2月の活動では、小学3～6年生を対象として、身近にある道具をこちらで集めて班で一つのピタゴラスイッチを作ってもらった。この活動では、試行錯誤を重ねながら最終的に完成できた時の達成感を味わってほしいという願いを軸にしたが、イメージが定まらないまま企画が進んでいった。そこで何度もプレを重ね、時間配分や道具の種類、どんな時に試行錯誤をして達成感につながっていくのかなどをひとつひとつ確認していくことができた。活動中は、悩みながらも班付きの声かけやヒントカードで少しずつアイデアを形作っていく姿、そして全てがつながるかを何度も試して身振り付きの大きな歓声で成功を喜ぶ姿が印象的だった。班が一体となり、子どもの達成感に向けて、様々な対応を想定できたことが子どもの満足した表情につながったのだと思う。

後期を振り返って、班員の様々な想いを聞いてお互いに深めていくことができ、非常に内容の濃い活動を行うことができた。この経験を踏まえ、さらに子ども理解を深め、子どもへの想いを大切にしていきたい。



2012年度 大江班前期 活動報告書

〈前期を振り返って〉

班長 2年 峯 崎 奈々子

前期大江班では、「楽しい」と「思い出に残る」という二つのキーワードを土台とし、6月に「～作って売ろう！買って食べよう！～集まれ！わくわく屋台村★」を、8月に「熊本の果てまでイッテQ！～市電の旅～」という活動を行った。

6月の活動では、小学校3～6年生を対象として「いろんな場面で多くの人と関わり、わくわくわくしよう」という目的をたて、屋台村を作った。この目的は、子どもたちがわくわくした状態から、周りの人との交流を通してさらにわくわくしてほしいという学生の思いのもとたてられた。自分の班の屋台の看板作りから始まり、売る物を調理して、店番として売ったり、また客側として買ったりという交流の場を設けたが、班をこえての活発な交流はあまり見られなかった。しかし、実際に料理をしたものを売るという形をとることで、子どものわくわくしている様子や生き活きとした表情をみることができた。学生の思いと子どもの行動とのギャップについて考えることのできる活動となった。

8月の活動では、小学校3、4年生を対象として「多くのことを体験して、何かを発見しよう」という目的をたて、市電を使いウォークラリーを行った。市電の乗り方やマナーを知ったり、友達と地図を見ながら目的地に向かったりするなど他にも多くの体験ができる場を作り出すことができた。実際に子どもたちは車内の様子にとっても興味を持っていた。発見したという気持ちは一人一人異なってくるので、一概に全員が何かの発見があったとは言い切れないが、きらきらした笑顔をみることができた。

前期を振り返り、班員や公民館の先生の望む活動をみんなで作り上げることの難しさを感じるとともに、一人一人の子どもたちに対する思いの強さも感じた。これからは周りの人たちと連携をうまくとることをより意識しながら、子どもたちのことをもっともっと考えていきたいと思う。



2012年度 大江班後期 活動報告書

〈後期をふり返って〉

班長 1年 藤山 茉優

後期大江班では、活動の土台のキーワードを保護者とし、1月に「作ろう！わが家のカレンダー」2月に「うち時計～いま何時？～」という活動を行った。あえて同じような活動を行うことで、1回目の活動の反省点を2回目の活動で生かせるようにした。さらに、達成感を得て保護者に自慢し、褒められることで、自信に繋げて欲しいという学生の願いを二度の活動を通して達成できるような目的を立てた。

1回目の活動では「夢中・熱中して達成感を得よう」という目的のもと木材や紙粘土などを使ってカレンダーを作り、その後班の中で発表会をするという形式をとった。同じ材料であっても学生が思いつかないようなものを作るなど、子どもの発想力の豊かさに感心させられる活動となった。と同時に、子どもがするには材料の種類や量、時間が合っていなかったという点や、会場を変えずに工作をした班の中で発表をしたために、子どもが発表会の雰囲気を味わうことが出来なかったという反省が上がった。

2回目の活動では「自慢して褒められて自信に繋げよう」という目的のもと、コルクボードを土台としてスパンコールなどを使って時計を作り、その後展示会を開き親子で見て回るという活動を行った。1回目の活動の反省を生かすべく工作で使う材料や発表会の形式にこだわり、時計は子ども一人ひとりの個性溢れる物が出来上がった。そして、展示会では親に自分の作品の説明をする子どもの姿や我が子の作品を写真におさめる保護者の方々の姿を見ることが出来た。さらに保護者の方々にアンケートを書いていただくことでより率直な気持ちを知ることができ、非常に充実した活動となった。

単発は毎回異なった活動を行うため前回の活動で出た反省を次の活動で生かすことは難しい。しかし、1回目の活動の反省点を2回目の活動で生かせるような活動を行うことでより質の高い活動を作りあげることが出来るのではないかと思った。



2012年度(平成24年度) 熊本大学フレンドシップ事業 シンポジウム・分科会開催要項

日時： 2013年(平成25年)3月4日(月) 10:00~16:30

場所： 熊本大学教育学部3-B教室

[午前の部：シンポジウム]

1. 開会挨拶 10:00~10:10

熊本大学教育学部長

登 田 龍 彦

2. メイクフレンズ活動の実施報告 10:10~11:10

(1) メイクフレンズ活動全体の振り返り

メイクフレンズ船長

安 達 友 美

(2) 班活動の振り返りとコメント

メイクフレンズ「中央プランナー班」班長

(前期) 橋 本 まどか

(後期) 松 本 修 歩

メイクフレンズ「五福ホール班」班長

(前期) 加 藤 涼 平

(後期) 田 中 亜由美

メイクフレンズ「龍田プランナー班」班長

(前期) 松 本 有 加

(後期) 井 上 大 輔

メイクフレンズ「託麻・お買い物もの班」班長

(前期) 衛 藤 み か

(後期) 森 田 大 介

メイクフレンズ「大江班」班長

(前期) 峯 崎 奈々子

(後期) 藤 山 茉 優

熊本市中央公民館社会教育主事

諏訪園 勉

熊本市五福公民館社会教育主事

江 川 義 友

熊本市龍田公民館社会教育主事

松 尾 典 征

熊本市託麻公民館社会教育主事

魚 住 敏 彦

熊本市大江公民館社会教育主事

作 本 達 昭

3. 連携協力機関関係者からのコメント 11:10~11:20

熊本県生涯学習推進センター審議員

上 杉 奈緒子

熊本県生涯学習推進センター主幹

上 村 修 治

熊本市役所生涯学習推進課主事

坂 口 亮

4. 特別講演 11:30~12:20

熊本県教育庁社会教育課長

石 川 仙太郎

5. 修了証授与並びに閉会挨拶 12:20～12:30

熊本大学教育学部附属教育実践総合センター長

中 川 保 敬

6. 連携協力機関関係者との企画運営協議会 12:30～13:10

連携協力機関関係者

熊本大学教育学部教員

[昼食]

[午後の部：学生自主企画分科会 教育学部3-A・3-B教室]

7. 学生自主企画分科会 13:15～16:30

開会挨拶 分科会実行委員長

堀 川 佳 穂

分科会設置の目的と目標

今回は、「共感」と「発見」の二つを自主企画分科会の目的とした。そこで、共感かつ新しい発見ができるような議題を提示し、テーマ別の班で議論する。また、一人ひとりが理解しようとする姿勢、発見しようとする姿勢を大切にして得たことを今後の在り方や活動に活かし、子ども理解を深めていくことを目標とする。

13:15～	開会式
13:30～	導入 討論会 (60分)
14:30～	休憩 (15分)
14:45～	意見交換 (90分)
16:15～	閉会式

Ⅱ. 分科会の実施報告



2012年度メイクフレンズ学生自主企画分科会

1. 目的 『共感』『発見』

方針にもある『共感』のように発見しようという姿勢、理解しようという姿勢を心がけることで誰もが自分の意見を言える場にしたいと思った。また、全学年の学生がこの分科会を通してどんな小さなことでも良いので新たな『発見』をしてほしいと思い、この目的を立てた。

2. 分科会で取り扱うテーマについて

話しやすい雰囲気を作るためには、テーマもみんなが話しやすいものにするべきだと考えた。そこで、みんなが「話したいこと」についてのアンケートを全体会で行った。その集計結果を分類し、8つのテーマを設定した。この8つのテーマから希望調査をし、班構成を行った。なお、このアンケートでは希望調査とともに、具体的に話したいことも書いてもらった。

1班：振り返りの意義について
振り返り会の重要性についてなど

2班：メイフレになぜいるのかについて
メイフレで学んだことなど

3班：自分がメイフレに対して求めていることについて
どんなメイフレであってほしいのかなど

4-I・II班：やってよかった活動・やってみたい活動について
どうしてよかったと思ったのか、どうしてその活動をしたいのかなど

5班：どんな見方、気持ちで子どもと関わっているのかについて
子どもに対する学生の視点についてなど

実施計画

1. 時間 13:15～16:30
- 13:15～ 開会式
 - 13:30～ 導入、討論会（60分）
 - 14:30～ 休憩（15分）
 - 14:45～ 意見交換会（90分）
 - 16:15～ 閉会式

2. テーマ

第一部：メイフレに入ってためになったこと、変わったこと、得たこと（全班共通）

第二部

1 班：振り返りの意義

- 1年：藤山 茉優 坂本 悠
- 2年：加藤 涼平 田中亜由美
- 3年：内田 開 有蘭 耕大
- 4年：山下雄太郎 外戸保香菜子 櫻井 寧人

2 班：メイフレになぜいるのか

- 1年：小柳 知穂 奥平萌菜美
- 2年：尾上 裕子 井上 大輔
- 3年：山口 郁彦
- 4年：井戸 伸之 西留 翔也 百合本悠紀 田端 万莉

3 班：自分がメイフレに求めていること

- 1年：坂崎 優平 工藤 友徳
- 2年：衛藤 みか 松本 修歩
- 3年：森田 大介
- 4年：竹下 孝世 堀川ひかり 奥村 優

4 班：やってよかった活動、これからしたい活動

4-I

- 1年：牟田 早織 松井 佳菜
- 2年：彌永さとみ 齊藤 李菜 峯崎奈々子
- 3年：國吉 晃平 添田 翔太
- 4年：陣内 直子 福本 祥大

4-II

1年：吉瀬 千尋 立山 史子
2年：安達 友美 堀川 佳穂
3年：弓削 朋未 奥家 沙紀 森 優太
4年：坂口小夜子 山本 寛

5班：どんな見方、気持ちで子どもと関わっているのか

1年：大隈 美央 中園 知沙
2年：松本 有加 追立めぐみ
3年：指宿 紗織
4年：平位 和久 伊藤 毅尚 柿原 智明



1 班 テーマ「メイフレに入っただけになっただけのこと、変わったこと、得たこと」

メンバー：まろ、ふっちゃん、ゆーみん、まよ、かい、ゾロリ、まろちゃん、やまゆう、さくらん

① メイフレに入っただけで自分自身が変わったところは？

- ・学校現場以外の子どもの表情が見れた
- ・人脈が増えた
- ・意見を対立させるのは苦手だけれど、かわれた
- ・班長をやるタイプではないけれど、「班長やる」と決意できた
- ・早いうちから、子どもと関われるので、ためになる
- ・基本的に変わってはいないけれど、自分の考えに軸ができてきた
- ・いろいろな考え方があったほうが、いいと分かった
- ・変わったかどうかは、外(社会)に出たから分かること
- ・子どもと関わることに恐れなくなった。
- ・子どものことを考えるようになった
- ・今までは、人の意見を聞くだけだったけど、人の意見をふまえて考えられるようになった
- ・企画、話し合いを通じて、自分の意見だけでなく、他人の感性をうけいれることで、自分のスタンスがみがかれていった

- ・話し合いが、いろんなことに影響していることが分かった
- ・子どものために考えたり、話し合うことの大切さが分かった
- ・初めに比べれば意見を言えるようになった
- ・現実的に考えられるようになった

② 子どもとも関わり方で、変わったこと、得たことは？

- ・関わり方に How to はないということ
- ・「この子は何を考えているんだろう」と考えようになった
- ・自分の軸で上手にいかなくなったとき、他のことのせいにあるのではない、自分をみつめなおす
- ・子どもと関わることで、自分の求めているものが分かってきた
- ・子どもが、いろんな人と接している姿を見て、その子のいろいろな姿を見るようになった

1 班 テーマ「振り返りの意義」

メンバー：まっち、ふっちゃん、ゆーみん、まふまふ、かい、ゴロリ、そっちゃん、やまゆう、さっくん

① 個人的に振り返りはしたいか？

- ★ふりがえりたいたい
 - ・ふりがえらないうと現状のまま
 - ・活動や会議を客観的にみる必要がある
 - ・子どもの様子が知りたい
 - ・次に生かしていきたい
 - ・班で共有することで意義がある
 - ・活動をしていく上では、しなくてはならない

★ふりがえりたくない

- ・ふりがえりをして、次の活動につながるを見出せない
- ・やる気の問題

② 振り返りシートは何のためにあるのか？

- ・個人で見ると分には良いけど、誰に向けて書くかで意味合いはかわる
- ・今の振り返り회가「振り返り会」と言われているのが違和感
- ・他班のふり返りを見ても、「どうすればいいのだろう」と思う
- ・自分の班だけでふり返りをしたほうが有意義なのでは？
- ・全体で共有できるものかいい
- ・映像をつかってイメージをつまみやすくしたい
- ・活動に参加していない人にも分かる書き方が良い

③ 振り返りたいて、どんな時

- ・裏方にいるときは、ふりがえりをして人の感性をとり入れたい
- ・やらかして、もっとよくしたいと思うとき
- ・疑問が出たとき
- ・うろたえさせたとき
- ・子どもの様子が気になるとき
- ・子どもに変化が起こったとき
(初め学生の対応とかを知りたい)
- ・自分が予想していた子どもの姿が違ったとき

2 班 テーマ「マイフレに入ってしまったこと
変わったこと、得たこと」

メンバー：ちい、もな、こりん、バボ、山ちゃん、ゆりも、No.BBY、とある、はたせん

(ちい) ・マイフレに入ってから子どもに話しかけられるようになった。
・公園で遊んでいる子とハイタッチしたりなど、子どもが好きになった。
・話し合っていて色々な人の意見を聞けることが大きなメリット。色々考えるようになった。自分の欠点に気づいたり、意見を言うようになった。

(もな) 週1回の話し合いで子どもと関われると思っていたが、それではまずまず、ガチの話し合い。話し合いを苦手とする私の話をみな真摯に受け止めてくれる嬉しさを感じた。
話し合いは未だによく分からないがメンバーが好き、楽しいと思っている。

(こりん) 子どもの姿を知れたことが一番！
自分は自分として成長して来たが、子どもと関わってみて、自分の成長との違いや、あ〜こんなことしたな、など振り返ることもできたし、色々気づくこともできた。

(とめち) コミ障が治ったということ、子どもとの関わりもあると思うが、大学生とのつながりを深くもてた。以前までは話し合っていて意見を言う時、セリフをノートに書いてからしか言えなかったが、今はそれがなくなった。

(バボ) 大人との関わり方を学んだ。そして子どもや大人との接し方も学んだ。これは教員になってからでも役に立つ。
また、子どものためにはどうすればいいかを考えるようになった。

(ゆりも) 入った時は適当な気持ちだった。他のものと両立して、優先順位は高くなかった。
1年の時、後期の際、班長とよくいえず、ぶつかったことが転機。子どもとマイフレに関わったことで子どもが好きだと再認識できた。先生になりたかったと中学で思ったが、これも改めて再認識できた。

(はたせん) ・子どもがもともと好きではなかったが入り、仲間ができて、仲間との活動の中で考えが変わっていった。子どものため、預かっている責任というものを感ずることができた。もしいなかったら、この考え方は得られなかった。

(No.BBY) ・初対面の人に対する警戒がなくなった。
・子どもが好きになった。
・大勢の人の前でも大丈夫になった。

(山ちゃん) ・多くの人との関わりがもてた。色々な人たちと関わり、人と関わるスキルを身につけられた。
・自信がついたこと、班長やイベントの代表として人前で話すことが多くなり自信となった。
・教員以外の道も考えられるようになった。
マイフレを九州に広げたいと思っている。
・責任について考えるようになった。
子どもが怪我をしたら、何があっても、自分にも責任はあるということ忘れはけない。

2 班 テーマ「メイプルになぜいるのか」

メンバー: ちいもな、こりん、バボ、山ちゃん、ゆりも、No.BBYとめち

ちい この前の活動で考え方が変わった。以前までは楽しいと思うだけだった。しかし、自分がこの前の活動で何もできなくて泣けてきた。もっと子どものことを知らなせよ! と思えた。

Q どんなことを考えながら活動している?
A 私は楽しいだけで終わっているが...

楽しむことは最も大事。自分が楽しくないことも子どもにさせても...

楽しむことも、活動を回すことを考えることも、いくつかのことをい、人にやるのは難しいから、それそれ... と思う。

もな 子どもの1~6年生で違う人たつことを知れた。企画かなどメイプルでしか経験できないことは将来の糧となる。

子どもが好まじい入ったので、関われる機会を与えてもらって、今楽しいなと思ってる。

バボ 入った理由としては、子どもと関わる機会が少なくて、いままま教師になるのが怖くて、子どもに関わりたいたいと思いついた。活動が楽しいと思えるから残っている。

Q. 先いたちは雲の上だと思える。どうしたらそんな風になれるのか?

A. 多分みんなそんな風を感じるから、一生懸命やり続けたら結果はおのずとついてくる。

山ちゃん やはり自分の大学生活の全てだから、メイプルがなかったら24時間暇人。この仲間たちがいるから!

また色々なことに挑戦させてもらっていることが自分の糧となることも理由の1つ。3年になり、忙しくなってきた中、行けなくなった。このままいいのかと思うこともあるが、ここは居場所だから。周りの人の心を動かせるような人になれば、子どもの心も動かせるようになるはずだから。残り1年は、それを意識していきたい。

はたせん 色々な人と関わるのができたのが大きい。話し合いの際対立することもあったが、その関係を越えて語るようになったのは大きかった。挨拶の時に子どもと関わったことがあるかと問われた際、メイプルのことを話せた。楽しんで子どもと関わる気持ちを忘れずにいてほしい。

No.BBY 1年の後期キャンプで先輩に大きな借りを作った。その先輩に借りを返そうとしたが、その分また大きな借りを作った。あえて半歩先を歩いて追いつけそうな距離にいた先輩の存在が私には大きかった。

ゆりも 私の大学生活にメイプルというワードは外せない。もって行けたのではないが、違う形で関わったのではないかと4年次思った。2ヵ月前の誕生日を祝ってくれ、ここが居場所なんだと思えた。

とめち 友達ができてくると思って入った。活動内容も知らずに入り、前半は楽しくなかったが、後半が楽しくなった。一番は友達、仲間がいるから残っている。こまめに話す仲間はメイプル以外にはない。

こりん 今期でメイプルを辞める。メイプルに対するやる気がない。話し合いが楽しくない。話し合い進まぬのに、未だ意味あるん? と思っちゃった。泣くほど頑張れる子がいるのに、こんな自分がいていいのかと思いついて辞めることにした。先週のA、人がどうかという風に比べるより、自分がどうしたいのかの気持ちを第1に考えて!

【まとめ】メイプルには色々な個人価値観次第。子どもが好きな人もいれば、そうでない人もいる。やはり重要なのは、「仲間」という存在。仲間を大切にしながら、これから子ども理解を深めていきたい!

3班 テーマ「メイフレに入、てためにな、たこと、変、わ、れ、た、こ、と、得、た、こ、と」 メンバー：ザック、ともぞう、ましゅー、も、た、た、か、よ、ち、ひーちゃん、You、えとらー (書記)

Q メイフレに入、てためにな、たこと、
変、わ、れ、た、こ、と、得、た、こ、と、は？

☆自分の成長、変化

- メイフレの人の話を聞いて
いろんなことを吸収できた (ザック)
- 人前で話せるようになった。
(ザック、ともぞう、も、た、ましゅー、You)
- メイフレの先輩方のこだわりが
わかるようになった。(ひーちゃん)
- “教師になりたい!”と思った。
(も、た)
- 企画・運営について知れた
↳ここまで細かいところまで
や、て、る、ん、だ、な、ー!
(ましゅー)
- 子どもがかわいいと思えた
(も、た)
- 柔軟になった。(も、た)
- 子どもに「こうな、て、ほ、し、い、」という
想、い、が、あ、て、て、き、た (えとらー)
- 社会教育について広く知れた。
(たかよち)
- 自分の意見が言えるようになった。
(たかよち)

- 充実した1年だった! (ザック)
- メイフレが好きになった。
↳アツクだった (You)
- 周りの人が協力してくれている
ことを知った (ともぞう)

☆子どもとの関わりの中で...

- メイフレにいることで
子どもと触れあえ、関わる
↳良い経験、子どものことを
考える時間ができた。
(ましゅー)
- プランナーで子どもの成長が
見れた。(も、た、ザック)
- メイフレは子どもたちと
と、て、学、校、以、外、で、楽、し、め、る
場、所、な、ん、だ、と、感、じ、た。
(たかよち)
- “笑顔を守りたい”
↳ おもしろい活動をして
↳ プランナーを見守って
(も、た)
- 子どもがかわいい!!

☆きついこともあった...

- “やめてやる”と思った。
(続けてるけど) (You)
- “なんでそんなにはこたわらなかった?”
↳でも学年が上がるとわか、た、!
(ひーちゃん)
- 班のことはかり考えて、子どもその
ことを考えられなかった。
(えとらー)
- 期日とか背負うものが
多かった。(ましゅー、えとらー)
- 失、っ、た、も、の、は、時、間 (You)

☆いろいろ学びました!

- 実習でも活かせる経験
を、し、る。(ひーちゃん)
- 集団は何か怖い...
でも1人1人は良い人!!
(You)
- 責任を負っていることを
意識すべし!
↳連絡大切(ケガとか)
↳他の人に負担がいく。
(You)
- 教育の場は学校だけじゃない
↳いろんな人との関わりの中で
自分は育、っ、て、き、た、ん、だ、...!
(たかよち)

まとめ (^o^)/

“出会い”、て大切!!

↳ 子ども、先生、保護者、メイフレの人

みんな違、て、みんないい!!

班 テーマ「自分がマイフレに対して求めていること」

メンバー: ^(司会) ザック、ともぞう、ましか、えとう一、もた(書記)、ひーちゃん、たかおち、you
(以下、名前を、頭文字で記載)

★⑦ マイフレって、ボランティアだと思ってたけど、最近、教育的な意義があるらしいってこともわかってきた。それも踏まえて、マイフレに何を求めているのが聞いてみたい。(もたさん、踏まえてもいいけど...)

⑧ 軽い気持ちで入ったけど、こういう真剣に話す場もある。
→ 自分の視野を広げるため、成長するためのマイフレを求めている。
→ けど、活動は「楽しいもの」であってほしい。マイフレに本当に求めているものは「楽しい」かも。その中で、目的などが達成できたらしい。
『同じ子は1人もいない』だから、却って「楽しい」を推す。
⑨ 教育的意義は、外から求められてはいると思うが、まず私たちは「楽しさ」を求めたい。その中で、ワイワイする楽しさもいいけど、話しで楽しいとか、深めて楽しいとかの「充実した楽しさ」も求めたい。
子どもに求めるものニ子どもが楽しい → 学生も楽しくなきゃ! ⇒ 活動の深まり

⑩ 自分が成長することを求めている。
「いろいろな経験をしたいな!!」
→ ⑦ 子どもにつくることが楽しくないなら 本当に自分の成長のためだと思うけど... ⇒ ⑧ 叱る時とかも、どうやったらかまえてくれるかが考えが、こりあすは自分のためかな。
→ ⑨ 自分の将来のため、考えるなら、子どもに還元するってことになる。⇒ 基盤とかまでは、ちょっと潜在的には、子どものためと考えてるんじゃない?
⑪ 「教師になってから...」というのもあるけど、子どもにとっては、やはり楽しいものであってほしいと思う。

＜目的・ねらい＞ → 学生が思っているほどいいこと。
→ 子どもにとっては楽しいものであればいい。
他の目的は、何かしら感じとしてくれれば...
⑫ 「楽しい」って前提でよく言うけど、あつてどうなんだろう?
楽しい以外の目的(成長、協力)が達成できなかったら失敗なの?

⑬ 「聞きたい」って言った人は、今までの言葉でどう?
⑭ ためになつた。入ろうと思ったきっかけは、入学式で見たムービー(活動の)
今、マイフレに残ろうと思う気持ちがあるが、マイフレに求めているものなのかも。

★⑩ マイフレのこういう所が問題、変えたい!!ってところは?

⑮ 多人数があつてほしい。マイフレを話すこと(話し合い、体)を義務感でやらないでほしい。
特に班長は忙しい。→ 班長だけに仕事をさせない。
声をかけてあげる(積極的に)。
忙しい班員は、フットナリに班長に自分から聞きに行く等...
⑯ でも、わかつて、そういうのってサボっちゃうよね。
⑰ 来れない人とか、冷たく当たってしまうというものもある。
意見でも、否定する気持ちが出るのは分かるけど、言い方がキツイ。
もう少し相手のことも考えて言い方も変えてほしい...
＜決意＞ そういうきつい経験をもとに、他人を思いやる・助ける気持ちを
マイフレの人が持つように頑張りていきたい!!!

⑱ 実習・塾のバイトを経験して、子どもの遊ぶ時間がないことを実感。
→ マイフレという公民館(社会教育)とつながった場で、学校とは違う、経験ができる。(本能の赴くままに、はしゃげる場)
⑲ 学校で休みの日とかに、キャンプとか料理とかしたい。
(そこに大学生も入れたり、社会教育を取り入れたいなあ...)
今、三難(時間、空間、仲間)がないとか言う。→ マイフレに対して求めている(外が見て)
⑳ 実際、空間はある。時間がない+ゲームとか、時代の環境が関係。
㉑ インターンの学校 → ノーメティスday
保護者アンケート...忙しいから、テレビやゲームに子どもを任せている。

＜ある程度、話が終りに近づき...＞
㉒ やはり、子どもが根本
人間関係とか、たくさん話を聞けたけど、時間をかけて考えてみたい。
㉓ 社会(外)から見るという視点はなかった。
保護者にとっても、「活動がある」ってことが大切なこと。(子どもにいても)
⑳ プランターの保護者さんにも感謝の言葉をもらった。
いろいろ話は、とびましたが、たかさんの視点で話ができました!!

4-II 班 テーマ「×イレに入つたためにあつた変化のこと、得たこと」メンバー：きせ、ゆき、あいら、(まんび、もりぞー、とま、まよ、ひろ)おーちゃん

- 視野が広がった。今まで、自分を持って、人を言い負かそうとしていたけど、そうできない人もいて、受け入れる形にはつた。その変化の中で、子どもとの関わり方で、引き出しが増えて、子どもに「こういう方法で接すればいいんじゃないか」と考えられるようになった。また、他の人の接し方は違うので、そでも学んだ。自分を見つめ直すことができた。みんなの意見も聞いて、振り返りから。意見をがーと書いていたけど、一端受け止めると、歪気を読もうと。集団の中は、得意ではなかったけど、それを学んだ。
- 今まで、自分の考えも人に言うことが少なかった。考えはあるけど、×イレの列まで、ある人の列長をやって、自分の考えを言わないといけなかった、言ったら、受け止めてくれた。同調、安んずるだけではなく、自分の意見結ぶ場所。
- 教育学部の人には子どもに関して考え方が多い。文学部は少なくて、子どもにこづいてほしいからこうする、そういう過程がわからなかったから話し合っていた。
- 人見知りだけど、公民館の先生を含めて、知らない人を話せるようになった。話がでず、聞いている方だった。「班長のエエ出して、いよ」と言われた時、班のことで、やりたいことを伝えるようになった。
- ×イレに入るまでは、公民館の行事ほど参加したことがなかった。×イレに入ると子ども理解したい目的があって、話し合いは目的が違って最初は何からなかった。今、自分の意見を伝えるために、自我が芽生えたと思う。
- ×イレに入ってくる人は、子どもが好き。でも何で目的!?、と思って、そこから子どもの見方が変わって、自分が変わる。意図的に関わるのが教育。漠然ぼんぼんと、教育とは何か考えている。
- ×イレに入るまでは、人の前で意見を言うことが苦手で、人の話を聞いても流れて、自分で考えることは、あまりなかった。しかし、×イレで班長になって、自分の意見を言う形にはつた。
- 実習で友達として、関わっている人がいた。×イレで子どもとの距離感がわかる形にはつた。学校は、公民館でワイワイ、近所でもワイワイとは違う。やはり教育の場。学校での距離感がつかめる形にはつた。
- 人見知りだったけど、人と話すのが楽しくなつた。今でも初対面の人とは話せないけど、自分の中では変わり、たと思う。プランナーでは見通しを立てるのが得意だった。特に空間、イメージ、授業など、使えた。実習の時に使えた。普段からやっているから、休み時間に子どもとつまく関わられた。

- 宿泊活動で、泊ることでできる形にはつた。
- 人見知りだけど、適当で、面倒くさがり。×イレに入ると反逆した。自分の意見を言おうと思ってきた。他の人の意見を聞いて、流されることをあきらめた。
- 人に合わせることで、最初は、「それでいいです。」と言っていたけど。
- 自分から悩んで、後輩を悩ませて、自分を同じことを悩ませたいと思った。いろいろな人の意見を聞いて、どれか、自分の持っているものを真似する。「自分色にしていく！」

4-II 班 テーマ「やまから、に活動、こからしに活動」メンバー：ま、せ、れ、まー、あ、ら、う、ば、ん、び、も、り、ご、お、ら、ん、と、も、ひ、ろ、ま、よ。

- 印象に残っているのは「おかの町」。一体感、達成感を目的に活動した。別々に言及したのに、一つにまとめて到達越えて、交流できて感動した。一年の前期は「楽しかった」目的以外に「得たもの」が、あてまつられた。夢があった！
- 他に「おかの家」をやつたところもある。夢が夢から入る。
- 失敗して良かったという活動。「モザイクアート」の活動で、自分は何をしたらいいのかわからなかった。結果的には、タイムアップの意味、目的がある意味がわかった。もうひとつは、ファッションショー。テレビに「あ、世界が」出てきて、盛り上がった。
- プランターをやつた。どういふふうに子ども同士をつなげればいいのか。到着して話し、会議の方法は「試していい」ことばかり。新しいものを考えて作っていく。おかの町づくり」目的の子どもやりに活動でマッチした活動だった。
- プランターで、会議をたまたまやっている。毎日考える。試してきているけど、今までの「これからは、こうしたいから」という経験を生かし、反省を踏まえて、やり直しからスタート。他に別班と比べると「話」ができた。公民館の集りに参加した。プランターの活動で「地域の人とかわちのこ、面白いかも。その子は経験が豊富で、子どもを呼びこむ活動は、地域の人とかわちのこもいい」と思った。ナイトバグ、（夜の活動）
- 一年生の時の「あそびキャッチ」。2時間かけて、道を歩いて、たどり着いた所で、はしゃいでいる子どもをみて、自然の中に入らなくて、こたはに子どもは楽しめることを知った。だから、もと自然体験活動をした。
- 「セロリ」スイッチが楽しかった。一回学生でやってみて、いい感じに「はしゃいだ」と思ったけど、実際は楽しかったにみたいて。試行錯誤は「あそび」で、完成しないといけないと思って、完成するまで、いい感じの味で、本番完成して、良かった。ムセーを金監賞して、最後まで行くと、すく盛り上がったから良かった。

- 「ファッションショー」憧れの世界を実現できるから。学生の視点としては、別に「ムセー」で重くはないけれど、「とや顔を見る」という簡単な目的だったから、共通理解がある。とや！というものが明らかに見え、振り返りがしやすい。学びの要素が強いと、そればかり誘導して、押し付けにしているのは、本当の子どもその思いが反映される活動だった。
- 「グリーングラ」系本の中にあつたものであった。「エコリントック」は、自分の意図通りに子どもが動いている。エコリントックは「自分が元張りはこたはに違ふん」ということがわかってきた。環境問題は重い内容だけれど、導入で、エコの量を「朝青龍」「あまみん」何人分かに使った。真面目な話題に。自分がやりたかった活動ができた。一回目は思い出しに残る活動。昼から夜まで、キャンプをかねて、楽しいメインで活動した。2回目は「勉強クック」をやつた。
- 大観峰で元気な子どもが「あまみん」の山を登った。着いた時、子どもが泣いていた。「何で泣いているの」と聞いて「かわらぬ」という話。
- プランターが一つの活動。プランターのやりかたは、子どもが一年間の成長が見えること。保護者から、「自分から、休みに立候補した。」（子ども）とうれしかった。
- プランターをやつて、「こう言うことをしたい」というのができていい。子どもがやりたがる活動に「子どもはいい」のか考え。プランター、草花、どちらにもいいところがある。どちらを、求めるものが違う。どちらにする。「こたは」が「いい」。やらなければいけない「あそび」がある。公民館でやっているから、市民に伝えたいという活動したい。活動が「あそび」は「あそび」といふ。根本が「あそび」。

5 班 テーマ「メイフレに入ってためになったこと、変わったこと、
得たこと」メンバー：カズ、かき、千エツ、(書)いぶ、カーリー、ゆかちゃん、のち、(回)まみお

- ・司会とかする機会が得られた
- ・話し合いの時に自分の考えてることが言えるようになったと思う。
友だちとのお喋りは好きだけど、こーゆーの嫌いだ(笑)
でも今は慣れてきたのかなあ... (共感)
- ・子ども好きだなんて改めて思えた。
企画の時は子ども本体も見れないけど活動とかで関わって...
笑顔見たり話しかけてきたりするとかわいい♡
- ・子どもとの接し方が分かるようになった。
初めての活動で小千の子と何話せばいいか分からなかったけど、今は
難しい話するより「何色が好き？」とか簡単な話から... たんたん話せる
ようになってくる！1年前なら自分のことで精一杯だったけど...
- ・自分の妹が良い子だから子どもはみんな言うことを聞く良い子だと思ってた
→初めての活動で打ち砕かれた(笑)
でも「子どもはみんな言うことを聞かない」という認識で行った次の活動
ではみんな素直でとっても良い子だった...
いろいろな子どもがいるんだということを知った
最初(手書き)は現状も知らずに企画してたから
理想を語りすぎた、夢見てた(笑)
- ・みんなと話して価値観が変わった
最初は格好良いこと言わないといけないと思って考えすぎて結局何も
言えなかった。けどみんなが自分の考えてることを素直に言ってそれを見
て恥づかしいことじゃないんたって分かった。自分が思ってることを言え
ば変とか間違えてるとかない。

・自分が案外子どもも好きなんだって知った(好きになったのか?)
メイフレに入った時はそこまで... だったけど、子どものこと一生懸命考えて
企画したり笑顔見てるうちにどんどん子どもが好きになって気付いたら外部の
活動とかにも積極的に参加するようになっていた。

? ニンまで「メイフレに入って...」を考えてきたけど入る前はどんな感じだった
のかな?

・高校時代は部活とかにも入ってなくてみんなと話すような機会も無かった。
ゲームとかばかりしてた... 入って良かった♡

・真剣に考えることなくフワフワ生きてきた。自分の考えを言うこともなく
周りに流されてばかり...

・子どもの幅、考えの幅が広がった。今までは考えることはあっても自分の中で
止まっていた。言てつぶされて他の人にいろいろ言われる中で楽しいと思った。
言った後、行動した後、後悔するようになった(←それまでは後悔するほど
考えてないし行動してなかった)
9年思ってた夢が変わったのがびっくり。熊本市がやってる取り組みって珍しい。
こーゆー環境を整える方に行きたい。これはきっとメイフレに入ったから。
教師が働く場を作りたい。

その他の小ネタ
・メイフレに入ってリーダーにならなくなった
↑みんながリーダー

・危機管理気にならなくなった
・煮沸とレクのスキルアップ
・企画でいろいろな子どもの姿を想定したり...
・初体験がたっさん♡

5班 テーマ「どんな見方、気持ちで子どもと関わっているのか」メンバー：カズ、かき、千代(書)、いぶ、(司)かり、ゆかちん、のち、まみお

<テーマについて>

「せ、かく来てくれたし考えたから楽しんでほしい！例えば自分が思ってることができなくてもどかしい子がいたらその子が満喫できるように生徒が手伝うとか…」

「自分のことでいい、いい、いい、あんまり子どものこと考えられてない気がする」

「子どもと関わる時はそんな深く考えないで接する。外から見ると時は自分たちが目指す姿になってるかな？とかはあるけど…」

<目的のこと>

「目的立てても活動中はいい、いい、いい、頭から消えてる」

「企画では凄く意識して考えてきたのにいざ活動になると…消えてる」

「意識がもたない。チャレンジしようとしたけどどうもくいかない。忘れちゃうけど忘れちゃう(笑)」

(共通)

「でも常に考えられてるかは分からないけど、判断したり声かけする前には目的のこと思い出して一旦立ち止まって考えて、目的に沿う方の選択肢を採用してるよ。だからむしろ目的無いとどーしても、って焦る(笑)」

「でも目的達成できるように活動してる人だから…あれだけ考えたから時間と危険だけ気にすれば楽しんで良いと思う」

<再びテーマへ(笑)>

「この子今楽しいのか病→。会議に来てるし進めなきゃいけないけど嫌々座らされてるんじゃない？。パッと見て判断しない。吐き。」

「この子は何をしたいんだろう？今〇〇してるけど本当は？1人でしてるけど横4ラ4ラ見てる！意識してる？無意識？時々見れて面白い」

「ホレならでたね」

<ホレの話へ…>

「アランも単発も親から言われてくる子が結構いるから楽しみに来るけど」「単発ばかりだったから来てるのに参加しない子がいるのにびっくり！」

<あなたは叱れる?!>

「その子と仲良くなりた(楽しんでもらえると思え)けど優しくして言うこと聞いてくれないと叱らなきゃいけない。でも関係崩れるのが嫌…」

「単発だと尚更ねー」「その時に言わないといけない」「タイミング大切！」

「叱る時って怖がらせないといけない」「時と場合による」「伝わればOK」

「ただ叱るんじゃなくて理由を添える！フォローも大切！その子が×じゃなくその行為が×なんだって分からせる。」

「笑ってたら伝わらない。真面目に、真実に」

<自分が何だと思って子どもを見てる？>

「私は…〇〇です」(〇〇は名前)

「ボコと出の友だち。お姉さんではなく同じ目線でいきたいから。友だちだけどちょっと年上。楽しむ時は純粋に楽しむ。」

「友だちみたいでありがたいけど子どもからしたら学生なんじゃない…」

「Xイブのお兄さん、もしくはあさん(←)」

「向かんあ〜いっせ」

「相手の年齢にもよる。低学年だと先生ぽくなるけど小6とかだとお姉さんみたいなの」

「最強の理想は頼れるお兄さん」

「お父さんのボコ」

(XE) 千代はヒーローになりたい

合同分科会の事後アンケート結果

1. 班の雰囲気は話やすかったか。(4段階評価)

4 (話やすい) 3 (少し話やすい) 2 (少し話しにくい) 1 (話しにくい)

→3.90点

2. 目的(『共感』『発見』)について

(1) 共感について(心に残った意見やエピソードはあるか。)

- 第二部でやりたい活動や、やってよかった活動をたくさん聞いてすごくためになった。企画をする上で、子どもに楽しいと思ってもらうことが一番だが、前提として、企画する側が「楽しい」と思うことが大切なんだと思った。(1年)
- 自分が疑問に思っていたことを他の人が納得してくれたり、逆に他の人が疑問に思っていたことを自分が納得できたとき「共感」だと思った。(1年)
- 経験していないこと(他班の活動など)は振り返ることができないということは共感できた。
(1年)
- メイフレをやめたいと思ったことがあるという話を聞いて、そう思うくらい真剣にメイフレのことを考えているんだと思った。軽く考えている自分が恥ずかしかった。(1年)
- 個人と集団は別ものだという事。(1年)
- 学校だけが子どもを育てる場所ではないということ。(1年)
- 意図的に関わる＝教育ということ。(1年)
- 子どもにどう感じてほしいか考えて活動を考える、支援するという事。(1年)
- メイフレが自分の居場所になっていたこと、そしてそれを子どもに還元して、子どもの居場所をつくるための自分であることを、共感してもらうことで認めてもらった気がした。(2年)
- やりたい活動でたくさん出たアイデアの中に班全員がロマン的な夢のあるものを求めている。
(2年)
- いろんな視点、立場から目的を考えていくが、行き着く先は子どもだということ。(2年)
- 最初は子どもと関わるサークルだと思って入ってくるけど、活動以外に企画や振り返りがある。そのギャップに苦しむ時期もあるが、それを乗り越えると見えてくるものが素晴らしいという話に共感した。(2年)
- 集団に対する目線と個人に対する目線の違い。どちらかに集中するのではなく、その時に応じて使い分けていければいいと思った。(2年)
- もしメイフレがなければどんな生活を送っていたのかについて考えていた人が、自分以外にも多くいたので、良かった。(3年)
- 集団として見すぎない、個々として見ると見方も違うということ。(3年)
- 第一部の話で、「子ども」という言葉が入った意見が意外と少ないという意見が印象に残った。
(3年)
- 子どもとの定期的な関わりを通して、実習の際に「ただ楽しいだけではなく、主張をしない子にもちゃんと目を向けられているか」「必要な距離感を保てるか」といったことが自然と実践できているという点。無意識のうちにできるようになったことが増えているという前向きな考え方に

とても共感できた。(3年)

- ・人見知りだったが話せるようになったことや、自分の考えを持つようになったことに共感した。(3年)
- ・教師の自分で子どもと関わるのではなく、自分(一人の人間)として子どもと関わることができたという話に共感した。(4年)
- ・子どもはパッと見て何を考えているかわからないということ。(4年)
- ・話し合いの大切さに気付けたという言葉聞いてうれしく思った。(4年)
- ・「ここにいていいのだろうか」と思っているときに、仲間に助けられたことが、メイフレに残る理由になったことがあること。(4年)
- ・危機管理の大事さ。起きてからは遅いが、起きないとわからないこともある。その時に自分がどう動くか、そういう状況に直面した時の班としての対応が大切だと思った。(4年)
- ・メイフレの活動はどうしても教育的なものが求められていて、「楽しい」は前提となってしまうが、子どもにとって楽しい場をつくれることが大切だと思うという意見(4年)
- ・目的をいかに子どもに感じさせずに活動をするか、作るか。押しつけにならず、自然とできるような活動を考えることは大切。(4年)

(2) 発見について(次から実践してみたいと思う発見はあったか。)

- ・タイムテーブルの中に振り返り会を入れて、全体でする前に班でしっかりと振り返りをするべきだと思った。(1年)
- ・会議などで話せない子だけではなく、話せる子についても考えること。(1年)
- ・純粋に活動を楽しむだけでも良いということ。(1年)
- ・学生の責任の重さに気付いた。(1年)
- ・活動の時に子どもが今何を楽しんでいるのかを考えてみること。(1年)
- ・自分の考えを持つために、他の人の意見を真似して自分色にしていけばいいということ(1年)
- ・憧れの世界を実現する活動が子どもを引き付けるということ。(1年)
- ・写真やビデオを活用して活動報告会を開いたり、班での振り返りを行うこと(2年)
- ・自分の理想の先輩に近づいているのか不安はあるが、常に頑張っていたら後輩は見てくれているということ。(2年)
- ・メイフレというもの、社会教育について(子どもの遊ぶ場や環境を作り出しているということ)。(3年)
- ・自分がどんな風に(どんなポジションで)子どもと関わっているのかを見つめなおすこと。(3年)
- ・今の子どもは外遊びなどの実体験が減り、他者とのコミュニケーションが不足しているとメイフレの人たちが認識しているということは、少なくとも実体験を楽しみと思わせ、かつ、他者との関わりをしっかりとできる活動をつくるのが最低条件なのではないかということ。(3年)
- ・子どもの目的と学生の目的が交わる瞬間をつくること。(3年)
- ・こだわりを持って活動すること。(3年)
- ・心揺さぶる体験をした人の話を聞くことが勉強になるし、自分も心揺さぶられると思った。もっと色々な価値観の変わる体験をしなければいけないと思った。(4年)

- 子どもを分析して支援法を考えること。(4年)
- 当たり前になっていることに関して、改めて疑問を持つことは再発見につながるから大切であると思った。(4年)
- 子どもと関わるときに自分自身が楽しむことが大切だと改めて思った。(4年)
- 活動における評価の仕方(子どもの表情で判断する)。(4年)
- 遊びや子どもとの関わり以外での充実した楽しみ。(4年)
- 休日に子どもたちを集めて、教育抜きで活動すること。難しいが、きっとそういうことが教育の原点になるのではないかと思った。(4年)

3. もっと話したかった、考えたかった内容はあるか。

- 振り返り会の仕方について。(1年)
- 自分がどんな立場で子どもに接したいのか。(1年)
- 子ども理解について。(1年)
- 振り返りシートのメイフレ全体への生かし方。(2年)
- 自分がメイフレに求めるものを、なぜメイフレから求めるのかについて。(2年)
- メイフレとは何か、メイフレの特長。(2年)
- 子どものことを考えるときにみんなが軸としているもの。(2年)
- 子どもたちが実際学生のことをどのような存在としてみているのか。(2年)
- 子どもの遊びについて(昔と今と未来)。どのようにして私たちは子どもの遊びと向き合っているか。(3年)
- 叱ったあとのフォローについて。(4年)
- 活動に来る子どもの背景についてや、活動中に子どもが考えていることについて。(4年)
- みんなが振り返りに求めるもの。(4年)
- 外から見たメイフレの存在について。(4年)
- 子どもや保護者にとって「メイフレの活動」がどんな場になっているのかについて。(4年)

★中央プランナー班★

6/10 開講式
中央プランナー班の活動は、今年から6月10日にスタートしました。みんなが楽しみにしていました。これから、いろいろな活動を通して、みんなが成長できるように頑張ります。

7/23-24 プランナー合宿
自然の美しさを堪能し、1日1日を大切に過ごしました。1日目は、クッキングとゲームを行いました。2日目は、自然の美しさを堪能し、1日1日を大切に過ごしました。みんなが楽しんでいます。

8/24-22 COP19夏のバカンス大作戦 in あじき
1日目、ナイトハイキングをしました。2日目、ナイトハイキングをしました。3日目、ナイトハイキングをしました。みんなが楽しんでいます。

10/21 COP19のワドネ
秋のハロウィンフェスティバル。みんなが楽しんでいます。

12/23 COP19クリスマスパーティー in 中央
冬の寒さを吹き飛ばす。みんなが楽しんでいます。

絆MAX
エブリデースマイル
COP19

2012年度大江班

屋台村

2012年6月に、お友達と一緒にお出かけしました。お友達と一緒にお出かけしました。お友達と一緒にお出かけしました。

市電の旅
2012年8月に、熊本の果てまで行きました。市電を使い、熊本の街中をウォーキングしました。

五福ホール班★

巨大すごろく
みんなが楽しんでいます。

五福オリピック
みんなが楽しんでいます。

書道アート
みんなが楽しんでいます。

ジャイロ飛行機
みんなが楽しんでいます。

ドキワクアイス
みんなが楽しんでいます。

バルーンエスタ
みんなが楽しんでいます。

2012年度 話麻班

子どもたちは、お友達と一緒にお出かけしました。お友達と一緒にお出かけしました。お友達と一緒にお出かけしました。

パワフル森
みんなが楽しんでいます。

はじめのおかいそ〜カレー編〜
みんなが楽しんでいます。

次回(6月)は... ⇒ 『ワゴラスイッチ... ON!!』
みんなが楽しんでいます。

2012~2013 龍田プランナー班

6月 プランナー合宿 in 金峰山
プランナーの子どもたち19名が、金峰山で1泊2日の合宿を行いました。みんなが楽しんでいます。

8月 行こうよ豊野! フワフワ大作戦 in 夏休み
みんなが楽しんでいます。

10月 はじまるよ! ハロウィンパーティー☆
みんなが楽しんでいます。

プランナーって何?
みんなが楽しんでいます。

Ⅲ. 教育実践総合センター教員からのメッセージ



今年のメモリアル・ワード（12年度）

教育実践総合センター 教授 吉田道雄

今年もすばらしいシンポジウムでしたね。そして、また新しいメモリアル・ワードが生まれました。そのひとつは、“嫉妬”です。ことばだけ聞くと“どきっ”としますが、それはゲストでお見えたいただいた社会教育主事の先生からのコメントに含まれていました。皆さんの活動を通して築き上げられた子どもたちとの関係を目の当たりに見て、つい“うらやましいなあ”と思われたのだそうです。こうしたお気持ちを、学生たちが自信をもてるように表現してくださった先生に感謝しなければなりません。それにしても、“嫉妬”ということばをお使いいただけるほど、皆さんの活動がプロの目にもすばらしいものに映ったことはたしかなのです。私も自分のことのように“やったあ”と心の中で叫んでいました。

もうひとつのメモリアル・ワードは、午後に行われた皆さん方の自主企画分科会で飛び出しました。あるメンバーが“子どもたちの様子を見ていて、自分の方がこの子どもの立場になりたいなあと思った”と発言したのです。これはワードではなく気持ちの表現と言うべきですが、この場合は学生が子どもたちに“嫉妬”したと言えるかもしれませんね。これまた何ともすばらしいことではありませんか。それこそは、皆さんの活動によって、子どもたちがしっかり楽しく充実した時間を過ごすことができていることの証なのです。そして、自分自身を子どもの立場になって観ることができるなんて、これまた凄いことだと思います。メイクフレンズの活動に義務的に関わっているメンバーはいません。単位だって二の次でしょう。自分たちが本当に楽しいから、嬉しくなるから…。その気持ちが子どもたちにも伝わるのです。

センター長の中川先生が“この活動が100年も150年も続いてほしい”とおっしゃいました。私はこのメッセージにも感動しました。ただし、とても残念なことですが、私自身はあと100年後どころか、15年後のメイクフレンズの活動を見ることだって、できるかどうかかなり危うい年齢に達しました。しかし、そうなることは間違いないと200%の確信をもっています。

また、熊本県教育庁社会教育課の石川課長からは、ご多忙にもかかわらず、私たちのために貴重なご講演をいただきました。その中で、放課後子どもプランをはじめとした、学校と地域の連携についてのご紹介がありました。今後のメイクフレンズは、こうした、学校における子どもたちへの学習支援などにも活動を広げていく可能性を追求できればと思います。

平成24年度フレンドシップ事業の感想 —学生たちの立ち居振る舞いは美しかった—

教育実践総合センター 教授 高 原 朗 子

今年のシンポジウムは「子どもたちとの関わりを通して育つ学生たち」というテーマで、学生の報告および熊本県市の関係機関の先生による講評、熊本県社会教育課石川仙太郎課長による特別講演などがありました。

今年一番印象に残ったこと、それは学生達の立ち居振る舞いが他者を意識したとても美しいものであったことでした。まず、会場に入るとどの学生も気持ちよく「おはようございます」と挨拶をしてくれました。また、班活動の報告では、発表する前のお辞儀、発表中の声の大きさや明確さ、終了後のお礼の伝え方などすべての学生が心を込めて行っているように見えました。きっと何度も打ち合わせやリハーサルを行ったのでしょう。このことから、まずはどの班の活動も子どもたちのことを第一に考え充実していたのだということが感じられました。

また具体的な報告からは、以下のような感想を持ちました。第1に、「共感（協感・鏡感）と発見」という言葉の説明を聞いていたときに思ったのですが、言葉を自分たちで整理し定義することによって、フレンドシップ活動の意味や意義を意識することができ、それが実際の活動に生かされるのではないかということです。第2に、同じ子どもの反応でも学生によって感じ方が変わるという話があったことです。同じ場所にいながら、感じ方が違うことは実はよくあることですが、普段はあまりそのことを意識しないし、ましてや話し合うこともありません。それを敢えてすることで、人はそれぞれ個性を持った存在だと認めあえると思うのです。

フレンドシップ活動は年々進化しています。今年は学生たちが努力して「自分たちの自己実現だけではない取り組み」を行っており、これが参加する子どもたちによい影響を与えている大きな要因かもしれないと思いました。今後もこの活動がますます社会的に意義あるものとなるよう願っています。

『子どもの成長』を見て取ること

教育実践総合センター 准教授 中山 玄 三

『子どもの成長』に対する願いや思いが、2012年度の活動報告の中に、様々なキーワードとして表現されていました。大別してみると、主として、次の6つの事項が、メイフレの学生が期待する『子どもの成長』の具体的な姿であることがわかります。

- ① 子どもの興味・関心：「楽しい、笑顔、わくわく、夢中・熱中」
- ② 子どもの意欲・態度：「自主性、主体性、自然（自発性）」
- ③ 子どもの自己認識：「自覚、自慢、自信」
- ④ 子どもの表現力：「コミュニケーション、個性の表現、発想・創造・イメージの豊かさ」
- ⑤ 子どもの協調性：「一体感、チーム・団結、つながり・絆、協力、達成感の共有」
- ⑥ 子どもの帰属意識：「居場所、安心感」

さて、このような『子どもの成長』を、具体的な活動の場面で、どのように見て取っていけばいいのでしょうか？船長の安達友美さんは、『同じ子どもの反応でも、学生によって感じ方が変わるため、それを共有することで「子ども理解」の幅を広げ、深めることができる』と言います。この指摘は、次の段落で述べるような理論的な意味において、確かに妥当であり、かつ客観的であると言えます。また、それと同時に、メイフレのレジェンドとなった「子ども理解」の必然性・必要性という実践的な意味においても、とって大切な含蓄のある指摘であると思います。

一般に、私たち人間は誰でも、何かを見るとき、意識的か無意識かは別として必ず、個人が既に持っている経験をもとに、対象に意味や価値を付与して見ようとするため、個人の理解する内容の中に主観の介入が避けられません。だから、同じものを見ても、人によって感じ方や見方・考え方が変わるのです。また、私たち人間は誰でも、何かを理解しようとするとき、個人が理解できる範囲（容量：キャパシティ）というものがあって、その範囲内でしか理解できないため、個人の理解できる範囲には限界があります。そこで、他の人々と感じ方や見方・考え方を共有することで、個人の理解できる範囲、つまり理解の幅を広げ深めることができるようになるのです。

大切な点は、『子どもの成長』に対する願いや思いを、具体的な行動を表す目標として表現し、活動を通して『子どもの成長』の具体的な姿・様子を見て取っていくことで、目標の到達性を評価するということです。『子どもの成長』を主眼に、その目標と評価が表裏一体の関係であるという点を、企画・実践・振り返りのサイクルの中で、今まで以上に意識して取り組んでいかれると、より一層の充実が期待できるのではないかと思います。

フレンドシップ事業に思う

教育実践総合センター 特任教授 田 中 耕 治

今年度も、メイクフレンズのシンポジウムに参加して、さわやかな感動を覚えました。学生の皆さんは、机上の学びだけではなく、子ども達との協働の体験の中で達成感や連帯感を味わうという貴重な学びをしているように思いました。実際に体験した中でしか出てこない、悩みや喜びの言葉を聴くことができました。

学生の皆さん達の子どもたちの活動に対して願っている思いがよくわかりました。また、その思いを達成するために、さまざまな工夫や支援をしている様子がかげえました。そして、皆さんは、「子どもたちが、悩みながらも、皆さんのヒントや仲間のアイデアで、企画が形となっていく姿、そしてイベントが成功して達成感を味わい、成長していく」という姿を見るということになります。昨年、「学生の本気度が子どもたちを本気にさせている」という発表に「なるほど」と思いましたが、今年も「やはりそうなんだ」と納得しました。次に、子どもたちに変化が見えだし、自己表現を仕だして徐々に「やればできる」といった感情が芽生えてくる。…それがまた、学生の皆さんの喜びとなり、次へのエネルギーとなっていく。

学生の皆さんは、将来、教職に就くにしろ、他の職を選ぶにしろ、すばらしい体験をしているように思います。実際の社会では、今後さらに実践的指導力とコミュニケーション能力が必要となります。さらに、その時、その時に応じた応用力が要求されます。その応用力は、「こんな場合、どうするか」と考える日々の生活の中から育つものです。それを今、学んでいるんですね。

熊本市の公民館社会教育主事の先生が、「学生の皆さんが子どもたちから慕われている姿に、少し嫉妬しました。」と言われましたが、その言葉が、このフレンドシップ事業のすばらしさをよく表していると思います。

私も、自分の遠い昔の学生時代を思い出し、少し嫉妬しています。